



神奈川スバル株式会社



AUTOBACS SUPER GT Round5 スポーツランド菅生 RACE





神奈川スバル株式会社



<公式練習 / 1位>

昨年開催されなかったスポーツド菅生。2年ぶりの開催となりました。夏に一度テストを行っており、好感触を持っている得意なサーキット。ここで何とか新型BRZの優勝を飾りたい。お客さんも人数は5000人と決められた入場制限となりました。

まず練習走行は、2セットのタイヤ確認を行います。前回鈴鹿でリアのグリップダウンを少なく出来るように、オートポリスでのテストがあり、そこで試して良かった対策を取り得たのでのセットアップで今回進めていきます。菅生では、どのように反応するのか確認しながらタイヤの状況を確認していきます。やはりタイヤが新しい状態では、マシンバランスも良く、予選は自信を持って挑めるバランスでした。ただ問題は決勝のバランス。早めに決勝のセット出しに切替、マシンのセットアップを変更し、井口選手でロングの確認を行いました。





神奈川スバル株式会社



<公式予選 / 1位>

今回もQ1を担当してくれるのは、井口選手。一番タイヤの良い所で、ピットアウト後のマシンに引っ掛かりベストのタイミングを逃しましたが、Q1Bグループの2番手でQ1突破。井口選手のコメントからマシンのセット変更を行い、路面状況に合わせて少しアジャストしていきます。そしてQ2は自分(山内英輝)が担当します。トップを取って当然という雰囲気によりプレッシャーを感じましたが、問題なくマシンの動きに対して、しっかり攻めきる事ができ、今期3回目のポールポジションを獲得する事が出来ました。菅生戦でいうと、2018年、2019年、2020年は延期なので、1年間が空きますが、2021年と3年連続菅生で、ポールポジションを獲得。菅生戦での最多ポールポジションも記録する事が出来ました。更にチームと、この記録を更新していけるように頑張ります。





神奈川パール株式会社



<決勝 / 1位>

今回決勝のスタートを担当するのは、井口選手です。今シーズンに入り、ガソリンの搭載量が増えた事で、最初のスティントをショートにして、第二スティントをロングにするなど、チーム内での戦力を増やす事が出来るようになりました。第一スティントで、SCが入ってしまうと、昨年のように勝機を逃してしまうので、前半短めにして後半を伸ばす作戦を取るとい戦略のため、今回はチームからの指令で、後半を任される事になりました。

まず井口選手は、無難にスタートを決め、そこから後続を引き離していきます。後ろでは、5番手スタートの55号車ARTAが2番手までポジションを上げて、井口選手の後方まで迫ってきます。最初マージンが5秒まで開きましたが、1秒差まで追いつかれてしまいます。35周目に井口選手はピットに入り、残り後半は44周残して自分と交代します。チームから自分のピットアウト後のタイムで前に出られるからと指示がありました。





神奈川スバル株式会社



前に出られると直線スピードが8キロ程速いHSXは、この菅生では抜くのは難しい。アウトラップ必死で頑張った結果、自分達がトップをキープする事ができました。チームの働きも速く、ピットでも差を付ける事が出来たようです。そこから後ろを引き離していきますが、500車両の回収でSCが入ります。これでマージンが無くなり、真後ろに2番手以下が並びます。SC明け、前の周回遅れに引っ掛かり、55号車に並ばれる瞬間に接触もあり、後ろのエアロパーツが破損してしまいます。その影響でバランスも少し崩れましたが、自分でコントロールできる範囲だったので、そのまま後ろを11秒差まで引き離し、3年ぶりに、この待ちに待った3年ぶりの優勝！新型BRZで初優勝を飾る事ができました。新型BRZが販売され、お客さんの手元に渡ったタイミングで勝つ事が出来て良かったです。これでシリーズもトップに立つことができました。ここからより強いレースが出来るようにチーム一同で頑張っていきます。また引続きご声援よろしくお願い致します。

